

銀の道 CYCLING MAP



華やかなりし銀山の繁栄と、
相反する険路に触れる。



大森



石見銀山公園



路上にて

万葉の歌人、
終焉の地ははたして一。★

柿本人麻呂の終焉の地は諸説あり、謎が多いという。医者であり、アララギ派の歌人であり、万葉集研究の第一人者でもあった斎藤茂吉は研究の末、邑智町（現・美郷町）湯抱にある鴨山を、その地と定めた。斎藤茂吉鴨山記念館には、20年以上に及ぶ研究の遺墨や遺品、写真、書物などが展示され、「夢のごとき「鴨山」恋ひて われは来ぬ 誰も見しらぬ その「鴨山」を」という歌碑が建っている。万葉の歌人が人生を終えた地は、いずこか。



①大森代官所跡

江戸時代、幕府は石見銀山を直轄支配し大森に奉行所（後に代官所）を置いた。現在は石見銀山資料館となっている。



⑤五百羅漢

五百羅漢像には島根を代表する石材・福光石が使われている。これは淡い青緑色の軟質凝灰岩で、古くから石仏、灯籠、墓石に利用されてきた。



⑥石見銀山世界遺産センター

石見銀山の歴史や鉱山と暮らしの学習施設。ガイダンスコーナーや遺跡立体模型、遺跡クイズなど、より深く石見銀山を体感できる。



⑦萩原（おきわら）千軒

ここは輸送隊最初の休憩地で、当時は宿場町として栄え、多くの家並みが連なっていたことから「萩原千軒」と呼ばれるほどであった。



⑨井戸平左衛門碑

第19代大森代官「井戸平左衛門」は、飢饉時用の作物としてサツマイモを導入し、多くの命を救った。周辺の町村には感謝の碑が多く建てられている。



⑩幕末の頃の本陣

江戸時代の終わり、大森に赴任する代官は林家に宿泊した。当時の佇まいを残し、旅館「竜遊亭」として現在も引き継がれている。



②熊谷家住宅

町並み保存地区で最大級の商家建築である「熊谷家住宅」は、県重要文化財となっている。有力商人の地位や生活の変遷がわかる。



④梅と瓦の広場

県道31号線沿いにある、赤く光る石洲瓦が目印の広場。春の訪れとともに、梅がきれいに咲きほころぶという。



⑥梅雨左衛門の碑

由来は定かでないが、昔から「腰から下の病」に霊験があると言われる、今でも参拝者が絶えない。



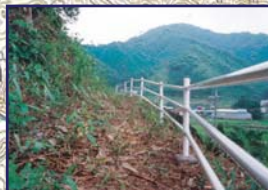
⑧箱茂（はこも）のお松

銀の道はここから美郷町に入る。この松の下は、道行く人々の休憩場所で、当時から「箱茂のお松」と呼ばれ親しまれていた。



⑩小原の本陣跡

輸送隊は小原で馬替えと昼食休憩をする。ここは江の川舟運と銀山輸送路の交点となる要衝の地。本陣跡もある。



⑫半駄の峡（はんだのかい）

街道は江の川に臨む急な断崖の上をいく。荷物を半分にしなければ、通れない程の危険な道であることから、この名が付いた。



⑬石原の古道

街道は江の川から別れ、支流の沢谷川に沿って飯南に向かう。県道と並行して当時の道筋が山側に残っている。

凡例

- 銀の道（サイクリング）※
- 主な施設
- 駐車場・駐車可能場所
- トイレ（車いす可）
- トイレ
- レストラン・食堂

※銀の道に最も近いと思われる車道をサイクリングコースに設定していますが、本来の銀の道とは異なる場合があります。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転してください。

0 1,000 2,000 3,000m